

## 2023年度 神戸市外国語大学 教職課程の自己点検・評価結果

※自己評価の基準 : A: 成果がある B: 概ね達成している C: 取組みが不十分又は未実施

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
1	教育理念・ 学修目標	大学全体	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は具体的かつ明確な形で設定されているか	教員養成の目標及び目指す教員像を明確に定めHPで公表するとともに教職課程ガイドブックで学生に周知している。目標を達成するための計画についてはガイドブックに掲載している履修モデルとスケジュールに加え、新たに教職課程科目のカリキュラムツリーを作成しHPで公表した。	A	<a href="#">教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画</a> ・教職課程ガイドブック
2		大学全体	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は、学生や採用権者の意見、神戸市教育委員会等が策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	教職支援センターの委員が神戸市教育委員会との連絡協議会等に積極的に出席し、養成・採用等に関する意向や方針を持ち帰ることにより、センターや大学との共通認識を図っている。今後は学生の意見等についても検証し、計画等への反映を検討する。	B	・神戸市教員育成指標 ・兵庫県教員資質向上指標
3		大学全体 各学科	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画について、一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果（学修成果）や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	目標や目指す教員像について、教職支援センターを通じて各学科・専攻で再確認を行い、必要な見直しを行った。また自己点検・評価の結果を踏まえ、教員養成の計画をHPで明示的に示すため、教職課程カリキュラムツリーを作成した。	A	<a href="#">教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画</a>
4	大学全体	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか	文科省の申請上、現時点で共通開設は行っていない。英米学科と国際関係学科で設置している英語免許課程において、学科の強み・特色を生かしつつ、より効率的かつ質の高い教職課程となるよう、今後共通開設について検討することも考えられる。	B	・教員養成課程の履修に関する規則別表3	
5	大学全体	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	I C T 環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	模擬授業を行う教室にはプロジェクターやWiFi等を備えている。また教職課程学生のための施設である教職サロンには関連図書や設備を適切に整備している。今年度、ロシア・中国・イスパニア各言語の高校教科書を購入したほか、教員養成に関する雑誌等についてもサロンに配架するなど、関連図書の充実を図った。	A	・備品管理台帳（教職サロン） ・書籍管理簿（教職サロン）	

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
6	授業科目・ 教育課程の 編成実施	学科等	教育課程の体系性	法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	必要な授業科目が適切に開設されている。また、各学科で体系的に開講される語学関連科目の中から、外国語コアカリキュラムに照らしてより適切な科目を教科専門科目として厳選し教員養成カリキュラムを編成している。今年度、英米学科・第2部英米学科・ロシア学科において教科専門科目のさらなる見直しを行った。	A	・教員養成課程の履修に関する規則 別表3・4・5
7		大学全体	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	教員として身につけることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか、到達目標や学修量が適切な水準となっているか	2022年度の「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に係る授業科目開設にあたり学内で科目間の整理を行った。引き続きコアカリキュラム対応表の活用等により各科目間の調整を図り効果的な編成を進める。	B	
8		大学全体	いわゆるキャップ制の設定状況	1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	教職支援センターでキャップ制についての理解を深めるとともに、教職課程を履修する学生の履修状況を確認し、概ね適切な履修状況であることを確認した。また今後継続的に履修状況の確認を行うための観点を定めた。引き続き学生の履修状況等を注視していく。	B	・履修登録単位の上限に関する規則 ・教職資格登録学生の履修状況表
9		学科等	教育課程の充実・見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	英米学科・第2部英米学科・ロシア学科において教科専門科目の見直しを行った。学生アンケートや自己点検・評価の結果等を踏まえ、引き続き見直しを行っていく。	B	
10		授業科目	個々の授業科目の到達目標の設定状況	法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	概ね適切である。今年度、シラバス作成に併せて外国語コアカリキュラムや教職課程コアカリキュラムの対応状況について確認を進めた。	A	・コアカリキュラム対応表
11		授業科目	シラバスの作成状況	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか	全学的なシラバス作成方針（シラバスガイドライン・入力マニュアル）を定め、周知している。	A	・シラバス

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
12	学修成果の把握・可視化	授業科目	アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	授業科目の到達目標に応じ、演習やグループワーク、ディスカッション、発表、フィールドワークなどを積極的に取り入れている。またオンラインやハイブリッド授業の提供をはじめ、ICTを活用した多様な授業方法を設けており、アクティブラーニングやICT活用など新たな手法を取り入れた授業を導入している。	A	
13		授業科目	個々の授業科目の見直しの状況	学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	前年度の授業評価アンケートの結果を活用し、随時授業の改善を行っている。	A	・シラバス
14		授業科目	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか	神戸市内をはじめ近隣の学校において教育実習を行う場合にゼミ担当教員（2023年度のべ18名）が巡回指導を行っている。加えて教育実習の評価については教職部会として成績を承認しており、大学の関与の下で適切に行っている。「教職実践演習」については教科に関する科目の教員のかかわり方について現在検討を進めているところである。	B	・2023年度教育実習巡回指導対象者一覧 ・2023年度巡回指導のお願い
15		大学全体	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか	適切に定め、大学ウェブページで公表するとともに、学生に対して「履修の手引き」等で周知している。	A	<a href="#">学修の評価、卒業認定基準等（【1】成績評価基準の基本方針）</a> ・履修の手引き
16	学科等	成績評価に関する共通理解の構築	同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか	シラバスの定型化や評価基準の統一により、成績評価の平準化を図っている。加えて、専攻語学については言語ごとの到達目標を定め、客観的な成績評価に努めている。	A		
17	学科等	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されているか	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか	目標の達成状況を明らかにするために、現在は「教員採用試験の合格率」（本学学生の合格率が神戸市の教員採用試験における中学校・高校（英語）の一般合格率を上回ることを指標として設定しているが、今後この指標の適切性・妥当性について検討を行う予定である。	B	・第3期調書「教職志望学生への支援」（2023実績評価）	

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
18			り、それがどの程度達成されているか	教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか	教職実践演習の授業の中で、それぞれの回のテーマ・趣旨に即して、各自の該当箇所の記述を振り返り共有し合うなどの形で活用している。今後、書くべきことがより焦点化されるように、項目名などを検討し、必要に応じて修正していく必要がある。	B	・履修カルテ
19		授業科目	成績評価の状況	各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか、公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	レポートや発言等の授業貢献度、試験結果など、あらかじめシラバスに明示した評価基準により定量的・定性的に達成水準を明らかにしている。また「教育実習」については別途評価基準と評価方法を定め、評価を行っている。	A	<a href="#">学修の評価、卒業認定基準等（【1】成績評価基準の基本方針）</a> ・教育実習の成績評価（評価の規準及び方法）
20	教職員組織	大学全体	教員の配置の状況	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか	教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等ともに必要専任教員数を充足している。	A	・教員養成に係る教員の数（PDF）
21		大学全体	教員の業績等	担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況	十分な研究実績及び実務経験を有すると考えられる。	A	<a href="#">教員紹介</a> <a href="#">2023年度実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（PDF）</a>
22		大学全体	職員の配置状況	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置している。	A	・事務分担表
23		大学全体	F D ・ S D の実施状況	いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのF D ・ S D が確実に実施されているか、適切な内容が実施できているか、実際に参加が確保できているか	大学として行うFD活動のほか、教職課程担当教員は専門領域のFD活動に積極的に取り組んでおり、事務職員も学内外のSD研修や教職課程に特化した研修に積極的に参加することで知識の拡充を図っている。今後は教職課程に特化したFD・SDの機会提供についても検討を行う。	B	<a href="#">FD・SD活動</a>
24		授業科目	授業評価アンケートの実施状況	個々の授業科目の見直しに繋がるF D の機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	全学的に授業評価アンケートを実施し、個々の授業科目の見直しに繋げている。今後、教員養成の目標や計画の達成度を測る学生アンケートの実施について検討を行う。	B	<a href="#">FD・SD活動</a>
25	大学全体	学校教育法施行規則第17条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行っているか	教職課程における情報を、HPを通じて学外者にもわかりやすく適切に公表している。	A	<a href="#">教職課程情報の公表</a>	

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
26	情報公表	大学全体	学修成果に関する情報公表の状況	大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか	実習校からの教育実習の成績評価は総じて高く、教員採用試験合格率は50%に達しており、高いレベルでの教員養成が行えていることを確認した。またそれらの情報をHPや大学データ集の中で公表している。	A	<a href="#">教員免許状取得状況及び教員就職状況</a> <a href="#">大学データ集 (2-6 資格等取得状況)</a>
27		大学全体	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができるか	準備を進めており、今年度内に公表予定である。根拠資料やデータについてはよりわかりやすい示し方を検討していく。	B	教職課程の情報公表 (6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組) ←年度末に掲載予定
28	教職指導 (学生の受け入れ・学生支援)	大学全体	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか、教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか	在学生に対しては、学内ポータルサイトの活用や掲示物を学内の決まった場所(教職サロン前)に集約するなど効果的な情報提供に努めている。学外に対しても本学の教員養成に関するウェブページを充実させることで広報に努めている。	A	・GAIDAI PASS <a href="#">教職課程</a>
29		大学全体	学生に対する履修指導の実施状況	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか	図書館や教職サロンに必要な図書や設備を整えている。免許取得や教員採用までの流れを示した教職課程ガイドブックを配布するとともに、事務局に教職専用窓口を設置し日常的に履修相談にあっている。また志を同じくする学生が集い互いのモチベーションを高めあえる教職勉強会を支援し、学生からの申し出に応じて教職員が模擬面接指導等を行っている。(教職サロンの利用回数は2/9時点で77回)	A	<a href="#">教員の養成に係る組織及び教員の数(教職支援センター)</a> <a href="#">教職支援</a> 教職課程ガイドブック
30				「履修カルテ」を適切に活用できているか	毎年度末及び教育実習終了時等に履修カルテを回収し、教職支援センターの教員が目を通しコメントを返すことにより、学生の学修意欲に込めている。	A	・履修カルテ
31		大学全体	学生に対する進路指導の実施状況	学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	採用試験の受験報告書を取りまとめ、次年度以降の学生が参照できるようにしている。各自治体等から届いた採用情報を教職サロンなど学生の目につく場所に公開している。またキャリアサポートセンターが主体となって神戸市や兵庫県教育委員会の採用説明会や私学教員採用対策セミナーを開催している。	A	・採用試験受験報告書 ・神戸市・兵庫県教委による採用説明会 ・私学教員採用対策セミナー開催案内

No.	大項目	レベル	中項目	観点	実施状況及び評価	評価	根拠資料
32	関係機関等との連携	大学全体	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか	近隣の教育委員会や学校と連携し、現職教員と教職課程履修学生が共同的・対話的に学び、意見交換する機会を年に数回設けている。	A	・第5回教職部会資料（スクールサポーター連絡協議会報告）
33		大学全体	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか	実習校との連携・協力のもと適切な教育実習が行えるよう、尼崎～姫路間の学校で行う教育実習において学生のゼミ担当教員（2023年度のべ18名）が巡回指導を行った。	A	・2023年度教育実習生巡回指導対象者一覧 ・2023巡回指導のお願い
34				学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	神戸市教育委員会の制度であるスクールサポーターや学校インターンシップの活動を授業科目として単位化し、学校体験活動として取組みを奨励している。定期的に学生の報告会を開催し、活動の改善や充実に向けた指導助言を行っている。2023年度は新規3名を加え全4名が活動を行った。	A	・募集説明会（開催案内） ・学生スクールサポーター活動報告書 ・学内報告会開催案内
35		大学全体	学外の多様な人材の活用状況	学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか	現職教員や教育委員会の方を特別講師として派遣していただき、教職概論及び教職実践演習等の科目において、講義内容の臨床化を図っている。また、実践演習では、高校現場と連携し、履修学生が、生徒の実態に即した学習プログラム（アクティビティ）の企画・実施にも取り組んでいる。	A	・2023教職概論講師・日程一覧 ・招聘講師 履歴書一覧 ・教職実践演習シラバス